

宮城県立聴覚支援学校 情報教育部  
(MIYAGI School for Deaf) + (J)**MSDJ 通心** 2023.4.14

なんでも情報誌!

文責：大槻浩義



## 新年度を迎え お花見に思うこと!!

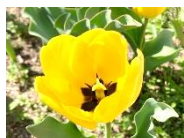
昨年より約2週間早く桜が開花した仙台では、4月11日の入学式には、お花見のピークは過ぎていました。新入生のみなさんにとっては、八本松公園の桜を見ることができなかったことは、とても残念だったと思います。

ずっと昔、仕事の関係で東北から東海地方まで職場を異動した時のこと、東北では桜のつぼみは硬く、関東に近づくにつれてつぼみが「ほころび」はじめました。静岡で丁度満開となり、名古屋に着いたときには、名古屋城の桜並木は「葉桜」となって私を迎えてくれました。

今年、3名の卒業生が東海・関東で社会人としてスタートしましたが、新天地でのお花見は一年間待たなければなりません。

「石の上にも三年」との諺がありますが、この解釈はさておき、春夏秋冬3回は繰り返さないと、その土地のほんとうの姿には気づかないような気がしています。と同時に、限りある時間は貴重であると感じました。

新たなスタートを切った卒業生と、今年の新入生、進級した皆さんにエールを送りたいと思います。



(4/3 撮影)

## 今年も「情報モラル研修会」 一人一台のタブレット端末配布の時代

4月6日に、職員を対象とした「情報モラル研修会」を実施しました。

今年度より教職員には「一人一台のタブレット端末」が配布されたことにより、これまでと違った授業作りを考えている先生方もおられると思います。一方で、この魔法のような道具を、日々の学習にどのように活用することが効果的なのかと迷っておられる先生方もいるのではないのでしょうか。私もその一人です。

この一年間で機器の操作については大分浸透してきたと感じています。そこで、一歩進んで「授業づくりにどのように活用するか」といった新たな課題が見えてきたような気がしています。

本校には4学部ありますので、ICT活用の事例として各部に紹介ができればと考えていますのでご協力をお願いします。

4月12・13日に、中学部・高専部の生徒向けに「情報モラル研修会」を実施しました。

確認となりますが、ICTの導入で情報が外部に発信する機会が増えてきますので、これまで以上に「著作権」や「人為的ミス」には注意が必要です。合わせて、「情報資産」は、デジタルデータだけではなく、ハードウェア、紙媒体も対象となることへの認識も大切です。



## ■ iPad 豆知識

### ●「タブレット」と「プロジェクター」とのミラーリング

ミラーリングのアイコンは、タブレット右上から斜め左下にスクロールすると現れます。

ミラーリングアイコンをタップすると、「画面ミラーリング」の選定となりますので使用教室を選定し、プロジェクターに表示された番号を「AirPlay バスコード」に入力して完了です。

授業終了後は、必ず「ミラーリング停止」をタップしてください。

詳しくは、掲示板でお知らせした動画をご覧ください。



### ●タブレット撮影フォーマット

iPad で撮影された画像は特殊なフォーマットで保存されますので、そのままでは Win10 の PC では開けません。iPad の設定を「互換性優先」にすれば解決できます。

詳しくは、「MSDJ 通心 No.3」をご覧ください。

<https://miyaro-s.myswan.ed.jp/jyohokyoiku>

## ■ 学校探訪

入学生を迎えるように、庭のチューリップも満開となっていました。各教室もごらんとおりです。



始業式の10日には授業が始まりました。

廊下では「タブレット」を構えた5年生の二人が息をこらしてジッと動かずに空を撮影していました。話によると、雲の動きを記録していたようです。

私の目には気づかないことも、二人にとっては「雲が動いている」とのことでした。

気象現象の確認だけであるならば、ネット上にアップされている動画で事足りるかもしれませんが、一手間加え、子どもたちが実際に自分で撮影し確認することは、同じタブレット画面からの映像であっても感動が全く違うものであると思います。

その後の授業はどのように展開したのでしょうか。とても楽しみです。

八本松 No.2  
の「マコ」

宮城県立聴覚支援学校 情報教育部  
(MIYAGI School for Deaf) + (J)**MSDJ 通心** 2023.5.29

なんでも情報誌!

文責：大槻浩義



## ICTの活用 MS-DOS・Win3.#の戸惑い

1980年代、かれこれ40年前のできごとになりますが、日本製のPCが世界的に幅をきかせていた時代であったと思います。



NECのPC-98シリーズはパーソナルコンピュータの代表格として職場にも導入されました。ただし、ワープロ専用機と比較して日本語変換能力はまだ低く、なにしろワープロソフト「一太郎3.0」は、オペレーティングシステムであるMS-DOSがフロッピー1枚に集約されており、それを差し込んで起動させてからでないと使えない原始的なものでしたので画期的ではありましたが、それほど期待されたものではありませんでした。また、表計算ソフトExcelは無く、私は専らMicrosoft Multiplan（マイクロソフト マルチプラン）を使っていました。関数はそれほど備わっていませんでしたが、PCの能力は驚きでした。

給料10数万そこそこの時代、PC1台40万円、ラインプリンター10万円で、ハードディスクの出始めは40Mバイト8万円と、今考えるととてつもなく高価でしたが、流石バブル全盛期、購入に当たってはさほど深く考えていませんでした。(後にバブル崩壊)



現在では64000MバイトUSBは3000円程度の価格

90年代に入り、DOS/V（ドスブイ）機が主流になってからは、現在のWindowsの原型であるWin3.#、Win95へと移行します。当然学校現場にも導入され始めました。風の便りに知るところでは、このことのでかなりの年配(?)の先生方が悩まれてしまったとのこと。今回のiPadの導入も、あのときの戸惑いの再来かと思ってしまう。

くれぐれも一人で悩まず、情報教育部にご相談ください。一緒に解決して行きましょう。



## ICT支援員配置事業の活用

令和5年度の県の事業として、ICT機器及びGoogle Workspaceの操作・活用研修や、教職員の授業等におけるサポートが企画されています。本校においても12月から3ヶ月間計16回のサポートを受けることができます。

その中には、オンラインによる動画配信や研修会・集会等の支援などもふくまれますが、昨年、一昨年と先生方が取り組んでこられ、既にクリアされている部分もあります。

今回の事業を有効活用するために、昨年度末実施したアンケートを参考にしながら秋口までに活用内容をとりまとめていきたいと考えています。

iPadの基本操作など何でも結構です。テレビのリモコンの操作を覚える感覚で、気軽にICT機器に触れてみてください。

また、「このような便利な機能を発見しました」といった情報

があれば、学校の皆さんに何らかの形でお知らせしたいと思しますのでよろしくお願い致します。

## ■今すぐ、誰にでもできることを!! 調べ学習・動画撮影...

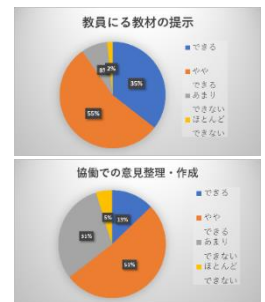
GIGAスクール構想により、タブレット端末機1人1台が整備されました。

今回の目玉は、インターネット環境が整い、これらの端末は「クラウド」と繋がっており、利用者個々のデータが集約され、そのデータを必要に応じて引き出し、教員と生徒が共有できる環境が整ったということになります。

下記のグラフは、本校における「教員のICT活用指導力等の実態アンケート」の集計結果です。

教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する事柄に関しては、「できる」「ややできる」のポイントは高く、一方、『協働』『意見交換』といったキーワードが入ったICTを活用した指導に関する問には、ポイントが低くなっています。

何やら難しい話に思えますが、まずは、すぐにでもできることからやってみるのはいかがでしょうか。調べ学習、動画撮影、簡単なプレゼン等々、私も生徒と一緒に楽しみたいと思います。情報をお待ちしています。



## ■小学部 運動会 5/26

夏日による熱中症が心配された小学部運動会でしたが、爽やかな風が吹く運動会日和となりました。

小学校の運動会ではお馴染みな「ジンギスカン」の力強い音楽が職員室に届き、終盤に差し掛かったことに気づいて急いでiPadを取りに戻りましたが、間に合いませんでした。



## ■中学部生徒総会 5/24

多くの質問が各学年から寄せられ、活発な生徒総会となりました。生徒会役員の皆さん、会員の皆さんご苦労様でした。



## ICT活用校内研修 4/20

iPadの機能について校内研修を行いました。

AirDrop/画像の傾き修正/

宮城県立聴覚支援学校 情報教育部  
(MIYAGI School for Deaf) + (J)**MSDJ 通心** 2023.6.21

なんでも情報誌!

文責：大槻浩義

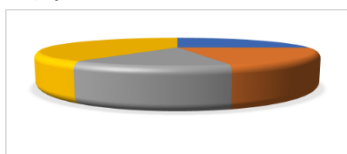
**情報公開****エビデンスと****批判的思考の向かう先は!!**

中学部の前期中間考査が三週間後に迫った6月上旬、1年生にとっては初めてとなる考査に向け学習計画を立てました。帰宅後の時間の使い方は学習を中心としたようで、不得意な科目を思い浮かべながら配分を考えていました。

さてここに、ある割合を示すグラフがあったとします。最近のExcelのグラフ機能は3Dにも対応し、どれを選んでプレゼンに使用したら良いか迷ってしまいます。

灰色の部分は全体の何%を占めているのでしょうか?

・・・実は15%にも満たない数値となります。半分とまでは行かないまでも、30%くらいか・・・と、感じられなくもない表現です。



普段、私たちが何気なく見ているグラフも、それを提供する側としては、相手に誤解を招く可能性があることを意識しておかなければなりません。

最近さまざまところで「エビデンス」ということばを耳にしますが、情報を公開する上で非常に重要な要素であることは言うまでもありません。

そのためにも「批判的思考」が重要だと言われ、自己に向けたこの思考で、責任ある行動と正しい発信に心がけたいものです。

また、このようなトレーニングを積むことで、情報化社会における情報の本質を見抜く力をも養ってほしいと思います。



さて、まもなく定期考査が始まりますが、生徒とともに期待と不安が入り交じった日々を送っています。

**■ 中学部 2年生 学科見学会 6/20**

中学部2年生による専門学科の見学会が、本校高等部の「産業工芸科」において行われました。

実習の授業を訪れ、施設の見学と、実際に実習で制作している作品を手



しながら、先輩の説明を熱心に聞き入っていました。

ご覧の写真は「背もたれのないイス」ツールです。腰掛けるところのひもの網目の違いによって、全く雰囲気が違ってくるところがとても素敵です。



その他、実習室には様ざまな作品が並べ

れていました。

現場一帯にはほのかな木の香りが漂い、工房の雰囲気が満載の空間でした。

**■ AirDrop + ミラーリング + カメラ**

中学部1年生の道徳の時間に、AirDropとミラーリング機能を使って、まとめの段階で生徒各自の意見を投影しながら発表してみました。

授業のはじめにプリントを配布し、個々の考えをまとめたものを生徒がカメラで撮影します。このデータを、AirDropを使って教員と共有し、教員がミラーリングを使って投影する、という至ってシンプルな手法です。もしかしたら、生徒が直接ミラーリングによって発表することも可能かも知れません。

本校のような少人数では、このような操作をしなくても済むかも知れませんが、この手法はさまざまところに応用が出来るような気がしました。KJ法的作業が可能な専用のソフトウェアもあると思いますが、ICT活用の初期の段階としては十分かと思えます。

今回これに取り組んで驚かされたことは、中学部1年生の段階でこの2つの機能を生徒自身が熟知していた事でした。難しい機能ではないのでどこかの段階で指導されているのであれば、やはり学部間の連携が大切だと感じました。そこで、キャリアパスポートの活用等も考えてみましたが、今はだれもができる時代であると言えるかもしれません。なお、この2つの機能は、MSDJ通心No.17・18 をご覧ください。

**■ 画像の傾き修正**

今年度も、聴覚障害児早期支援研修会が本校で開催されました。研修会は、本校職員による「早期教育相談の概要」・「聴覚障害者について」の説明がありました。(6/12)

会場の机上には、早期支援を支える数々の書籍が並べられてありましたので何枚か撮影させていただきました。

さて、このような被写体を斜め方向から撮影すると歪んだ画像になってしまう資料として使うことができません。それを修正するのが今回紹介する「iPadの画像修正」です。

**画像を選択し → 編集 → 修正画面に入ります。**



以上、参考にしてみてください。



宮城県立聴覚支援学校 情報教育部  
(MIYAGI School for Deaf) + (J)**MSDJ 通心** 2023.7.21

なんでも情報誌!

文責：大槻浩義



あの頃は(1983年)、

ジャンプするだけの

マリオで十分だった!!

**Society 5.0 社会の到来**

「情報活用能力」と「ICT を活用した学習活動」

7月15日、1983年7月15日に発売されたスーパーマリオでお馴染みのファミリーコンピュータ（通称ファミコン）が今年で40周年を迎えました。また、その数年前（1978年）は、どこの喫茶店にも置かれていた「インベーダーゲーム」が登場しています。私としては、100円を投入しゲームが始まるこちらの方が馴染み深いのですが、これを懐かしんでいる方は還暦を迎えたく限られた世代であると思いますが、いかがでしょうか。と言うのも、IC（集積回路）の技術の進歩はすさまじく、インベーダーゲームはすぐに化石と化してしまい、短命でした。



今後の世界は「Society 5.0 社会」を迎えるとされています。これに対して、かの言うファミコンやインベーダーゲームは、「Society 4.0 情報社会」の産物と言え、当時のゲーム機と現在とでは、全く次元の違う代物だと言うことから分かり、今後はさらに発展していくことでしょう。ちなみに Society 2.0 は農耕社会で、Society 3.0 は工業社会を指しています。



今回の新学習指導要領改定の背景には、この Society 5.0 社会の到来を見据えていることを見逃すことはできません。特に、情報活用能力の育成は目玉と言えるのではないのでしょうか。なにしろ子どもたちの未来は、ビックデータや AI が社会に影響を及ぼす新たな社会と言われているからです。

## ■ 「情報活用能力」

「情報活用能力」を文科省は次の3点で説明しています。

「A 情報活用の実践力」・「B 情報の科学的理解」・「C 情報社会に参画する態度」。インターネットで情報を収集し文書処理等ができて、プログラミングをとおしてコンピュータの仕組みを理解し、これらを活用する上で情報モラルをそなえていること。

## ■ 「ICT を活用した学習活動」

ICT を活用した学習とはどんな場面を想定しているか、次の「A 一斉学習」・「B 個別学習」・「C 協働学習」の3つに分類されています。特に「C 協働学習」については前々回の MSDJ 通心(No.18)でもお話ししたとおり、苦手意識を持った先生方が多いようです。

## ■ 本校の ICT 資産

GIGA スクール構想によって整備された本校の ICT 資産は表のとおりですが、特に令和5年度から導入された2つのクラウドサービスは、これまでの学習形態に変化をもたらし、より発展的な学習活動の可能性を広げるものでしょう。

### <本校の ICT 資産>

[令和4年度まで]

- ①全教室プロジェクター設置
- ②生徒用端末のインターネット接続・校内サーバー構築
- ③担任・生徒への iPad 配置
- ④iPad によるインターネット接続
- ⑤アップル TV によるミラーリング機能
- ⑥遠隔授業の環境整備

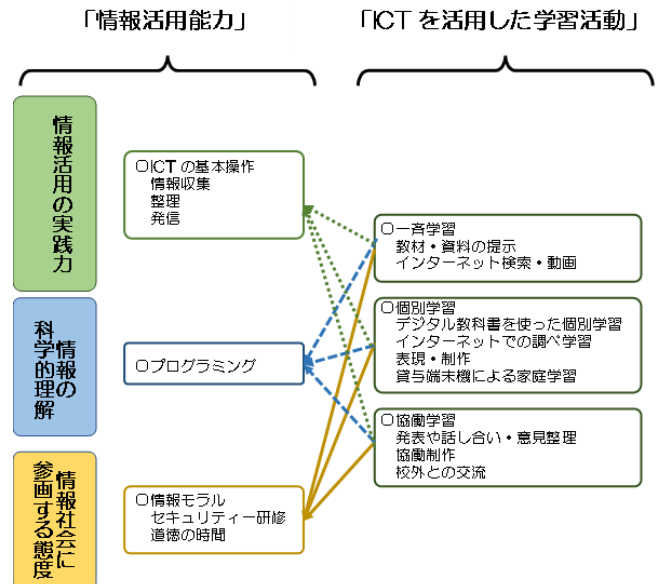


[令和5年度]

- ①教員1人1台 iPad 配置
- ②外部サービス（クラウドサービス）の構築
  - ・ Microsoft Office365 (@iz.myswan.ed.jp)
  - ・ Google Workspace (@gs.myswan.ed.jp)
 校務系 PC と生徒系 iPad の間で、データの相互乗り入れが可能となった。

また、これまで県内外の学校とのインターネットを利用した交流会等で得た「人的ネットワーク」も、ITC 資産として加えることができる。

このような情報活用能力と学習活動は、下記のような関係性になると思います。



今回は、「本校の ICT 資産」と「ICT を活用した学習活動」との関連についてももう少し具体的に考えてみたいと思います。

7/21（金）は、夏休み前最後の授業でした。中学部会では、スマホの利用を含め、夏休みの過ごし方のお話がありました。

8/24（木）には元気に再会しましょう。



参考資料: (文科省 GIGA スクール実現の全体概要参照)  
(内閣府 HP 参照)

宮城県立聴覚支援学校 情報教育部  
(MIYAGI School for Deaf) + (J)

**MSDJ 通心** 2023.10.17  
なんでも情報誌!

文責：大槻浩義



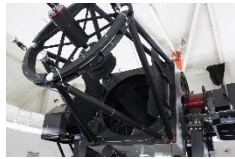
## 記録的な暑さだった 真夏日連続60日の仙台



でも、ちょっぴり懐かしい…。

朝夕はめっきり涼しくなり、ビルで遮られた太陽の光は長い影を落としています。登校途中の「あすと長町一丁目」交差点にあるマンションに隠れた太陽に気づき、確実に秋を迎えたことを感じました。

9月29日に、中学部の一年生の天文台学習が行われ、当日が中秋の名月でもあったことから、プラネタリウムをはじめとして大変楽しく有意義な学習会となりました。久々のプラネタリウムの映像体験は、まるで空中を浮遊しているような感覚でした。皆さんにもお勧めします!!



夏季休業に入るとともに梅雨明けとなった仙台でしたが、その後は過去に例のない連日の真夏日で、夏休み明けの授業はエアコン無しではとても続けられませんでした。いつもの年ですと「もう少し夏を楽しんでいたい・・・」などと悠長なことをいっていましたが、今年は流石に限界を超えました。・・・けれど、日が暮れるのがこんなにも早くなると、やっぱりあの暑さがちょっぴり懐かしいナーとの思いもあります皆さんはいかがでしょう。

## ■「ロイロノートを使った学習活動」 図や文字を用いて対話をするように表現する

8月23日に中学部の教科研究会に出席してきました。

授業の中で「探究活動」をどのように取り入れていくか等の説明がありました。講義の演習は「ロイロノート」を使って行われました。ひとグループ数名の意見は1つの画面にそれぞれ書き込みが可能で、他のグループの作業も閲覧できるようになっていました。昨年度、小学部の居住地校との学習のなかで、仙台市はこのソフトを使った学習が行われていたと先生から聞いた記憶がよみがえりましたが、残念ながら本校にはこのような機能を備えた環境がありません。

今年度の中学部の「研究テーマ」が、『言語力・学力を高める個別の最適化を目指して』となっていますが、授業の一例として「中学部 理科」に置き換えて考えました。



この画像は、気象に関するもので、天気の記号を「ホワイトボード」を使って発表しているところです。もしこれを先に紹介した「ロイロノート」を使って授業を行ったとすると、生徒がまとめた考えを、その場で『図や文字を用いて』対話をするように授業が進められるのではないかと思います。

## ■夏の風景



## ■教科外研究(…言語指導…)の紹介!!

10月4日の校内教科外研究で、大変興味深い発表がありましたので、発表した安達先生のご協力により、紹介していただきました。

「自分の気持ちを文章表現する」という難しいテーマに、児童が進んで授業に取り組んでいる様子がうかがえました。



自立活動の学習として、iPadのアプリ「iMovie」を使った実践を行いました。

「iMovie」では、様々な動画の編集ができます。その編集機能の一つに、「予告編」というテンプレートがあり、映画の予告のようなショートムービーを作成することができます。今回はその、予告編の機能を使った実践をご紹介します。

<目的>

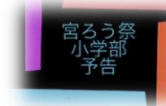
・自分の気持ちや考えを整理し、様々な文章表現を使って文を書く。

<学習の流れ>

1. 宮ろう祭の劇について知る。  
台本をもらい、まずは全体の内容を把握する。
2. アピールポイントを考える。  
劇の練習をしていく中で感じた、劇の良いところ、周囲に伝えたいことなどを考え、思いついたことを自由に書く。
3. 予告編に入れたい文を考える。  
自由に書いたPRポイントを基に、自分が伝えたいことを短い文にまとめる。
4. iMovieを使い、予告編を作る。  
自分が考えた文を基に、予告編を使って編集を行う。豊かな文章表現を目指し、教師が必要に応じて文章表現の指導を行いながら作成をする。

本実践を通して、児童の実態に応じた教材を選定すること、興味のある題材(宮ろう祭)を用いること、また、ICTを生かした授業づくりなどを行うことで、児童が進んでことばの学習に取り組むことができると感じました。

本実践では行事の紹介でしたが、今後は、社会で学習した施設の紹介、総合的な学習の時間に調べた内容を紹介するときなどにこの予告編を活用できるのではないかと考えています。(安達)



今回の教科外研究会の研究主題は「学部間のくわたり」に着目した指導のあり方となっています。このようなプレゼンをテーマとし教材で、発達段階に応じた一貫した学びが行われたとすれば、効果的なコミュニケーションの実現に向かうのではないかと考えます。

今回の研修では、「言語発達段階早見表」も提示していただき、今後の指導の参考にしたいと思います。

ご協力ありがとうございました。

iPadのアプリ「iMovie」の使用法については「MSDJ 通心 No.10・No.11」をご覧ください。

宮城県立聴覚支援学校 情報教育部

(MIYAGI School for Deaf) + (J)

**MSDJ 通心** 2023.11.29

なんでも情報誌!

文責：大槻浩義



## 冬の到来間近!!

### V字飛行する渡り鳥 その理由は?

11月に入ったある夜、暗闇の上空から「クォ〜クォ〜」と冷たい空気を切り裂くような澄み切った鳴き声が聞こえてきました。その時はその鳴き声の主を見ることはできませんでしたが、遠くシベリアから渡ってきた白鳥だったのでしょうか。その飛行距離は4000kmにも及び、2週間ほどで日本に到達すると言われています。

11月28日朝、数十羽の白鳥が、あの鳴き声と共に1つのV字になって私の頭上を飛んでいきました。しばらく見ていると、きれいなV字は一端崩れ、編隊の中程から先頭を目指す者が現れ、再びきれいなそれは見事なV字編隊を組んで南を目指して行きました。



V字編隊を繰り返す理由としては、過酷で危険な渡りを、確実に成し遂げるためだと思われます。

V字編隊での飛行は、後方の鳥にとって風の抵抗が軽減されると言われています。先頭を飛ぶ「者」は、風という大きな抵抗をまともに受け、

体力を消耗してしまいます。そのために彼らは、何度も先頭を入れ替えながら、全体を引っ張っているのでしょう。「次に前に行くのは誰だ!!」と、しばらく見上げていました。

余談になりますが、自転車のロードレースでは、トップ集団を追う第二集団の選手達は、暗黙の内に先頭を入れ替わりながらトップ集団を猛追するのもそのような理由からです。

自然の営みからは学ぶことが多いですね。



### ■「12月よりICT支援員の配置」

12月6日(水)から3ヶ月間、週2日程度で16回、ICT支援員の方が本校を訪れ、先生方のサポートをしていただきます。

ある程度知っていることでも、あらためてご相談しても良いのではないのでしょうか。そのようなところで出た話やあらたな知識が後日役立つ事は多いかと思えます。



支援員の方も、先生方と一緒に学校の仕事に関われることを楽しみにしておられると思います。まずはご遠慮なされずに、声を掛けていただければと思います。

なお、事業の一部に、ICTを活用した授業実践の収録というものがありますので、授業・生徒に配慮しながら撮影することもありますのでご協力をお願いします。

#### 行事紹介1

11月24日(金)中学部では、「富士通未来の語り場プロジェクト」が行われ、聴覚に障害がある方からのお話がありました。また、10年後の自分について、そこで何をしたいのかといった、将来の自分と向き合いながら、未来を語り合いました。



### ■「生成AI (ChatGPT)」

「生成AI」という言葉を最近になってよく耳にします。「生成」を辞書で調べると『物が新たに生じること』とあり、これによって「生成AI」は、文章・画像・音声など新たなコンテンツを生成するしくみと言われています。生成AIは、答えのないものを大量のデータから類推して結果を返します。

それでは具体的に何ができるのでしょうか?

- ①質問への回答
- ②会話的な応答
- ③文法・スペルチェック・文章の修正・要約
- ④翻訳
- ⑤プログラミングコードの生成
- ⑥データ整形 など

できないこともあるのでしょうか?

- ①毎回完全に正確な回答、正確な計算
- ②最新の情報に基づく分析・回答 ※
- ③組織内部・身近な地域情報に基づく回答



実際に、ChatGPTを使って、『電気自動車の車内で使いたくなる新商品のアイデアを10個出して』という、問いかけをしたところ、もの見事に文章化されて回答されました。

大変便利なものですが、注意も必要です。正確性、信憑性、表現の適切性などはしっかりチェックする必要があります。なおこの点については、「文科省の暫定ガイドライン」や「宮城県教育庁生成AI活用5原則」に定められていますのでご確認ください。

本校でも、生成AI (ChatGPT) の導入に向けて取り組んでいます。その利用に当たっては利用者側の情報モラルが求められるとともにガイドラインに則ったルールと手続きを必要としますので、情報教育部までおたずねください。

[宮城県教育庁 教育企画室資料参照]

### ■「ロイロノートを使った学習活動」その2

現在ロイロノートの導入に向けて取り組んでいます。

導入として、次の2つの動画をおすすめします。

QRコードより入ってください。



このシステムの導入によってこれまでも増して生徒ひとりひとりの意見を可視化することで、協働学習が活発におこなわれることが期待できます。今後は先生方の授業事例を持ち寄って、育てていきたいと考えていますので情報教育部へお声がけください。

#### 行事紹介2

11月25日(土)、ひよこ土曜集団活動が行われました。最初に手話クイズを行い、その後で本校を卒業した生徒や保護者の方のお話がありました。

大学生活を送る卒業生のお話、ひよこの保護者は、熱心に耳を傾けておられました。



宮城県立聴覚支援学校 情報教育部

(MIYAGI School for Deaf) + (J)

# MSDJ 通心 2023.12.21

なんでも情報誌!

文責：大槻浩義



## 「MSDJ 通心」の12ヶ月!!

12月18日の朝、学校周辺の住宅の北側の屋根にうっすらと雪を見ることができました。仙台の北部から通学する生徒さんの話によると、5センチメートルくらいあったといいますから、今シーズン初めてのまとまった雪だったと思います。

公園周辺をめぐらしているノラ猫「チャコ」と「マコ」は相変わらず元気だとの情報をいただきました。



今年も残りわずかとなりましたが、その前に各学部のクリスマスの催しでは、楽しいひとときを過ごしていました。



### ■ 4月 今年も「情報モラル研修会」 一人一台のタブレット端末配布の時代

ICTの導入で情報を外部に発信する機会が増えてきますので、これまで以上に「著作権」や「人為的ミス」には注意が必要です。合わせて、「情報資産」は、デジタルデータだけではなく、ハードウェア、紙媒体も対象となることへの認識も大切です。



### ■ 5月 今すぐ、誰にでもできることを!! 調べ学習・動画撮影...

『協働』や『意見交換』等のICTの活用は、ポイントが低くなっています。

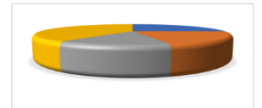
何やら難しい話に思えますが、まずは、すぐにでもできるところからやってみるのはいかがでしょうか。調べ学習、動画撮影、簡単なプレゼン等々、生徒と一緒に楽しみたいと思います。



### ■ 6月 情報公開 エビデンスと批判的思考の向かう先は!!

灰色の部分は全体の何%を占めているのでしょうか?

・・・実は15%にも満たないです。普段、私たちが何気なく見ているグラフも、それを提供する側としては、相手に誤解を招く可能性があることを意識しておかなければなりません。責任ある行動と正しい発信に心がけたいものです。



### ■ Society 5.0 社会の到来 あの頃は(1983年)

ジャンプするだけのマリオで十分だった!!

今回の新学習指導要領改定の背景には、このSociety 5.0社会の到来を見据えていることを見逃すことはできません。特に、情報活用能力の育成は目玉と言えるのではないのでしょうか。なにしろ子どもたちの未来は、ビッグデータやAIが社会に影響を及ぼす新たな社会と言われているからです。



### ■ 10月 教科外研究(言語指導)の紹介!!

10月4日の校内教科外研究で、大変興味深い発表がありました。「自分の気持ちを文章表現する」という難しいテーマに、児童が進んで授業に取り組んでいる様子がかえりました。



今回の教科外研究会の研究主題は「学部間のくわたり」に着目した指導のあり方となっています。このようなプレゼンをテーマとした教材で、発達段階に応じた一貫した学びが行われたとすれば、効果的なコミュニケーションの実現に向かうのではないかと考えます。

### ■ 11・12月 ロイロノード導入・ICT支援員の配置

来年もよろしくお祈りします!!

### ■ 1月 オンラインによる学習支援(中学部)

本校では寄宿舎の利用が小学部から可能ですが、遠方から通学している生徒さんもいます。

今回の悪天候の影響でやむを得ず自宅学習を選んだ生徒さんもありました。そこで、今回オンラインによる学習支援を学部で実施しました。

Google Classroomで学校から授業を発信するとともに、生徒さんも家庭でiPadを使って授業に参加することができました。



### ■ 2月 寄贈図書教材の紹介

令和4年度 公益財団法人 日本教育公務員弘済会宮城支部から図書・教材を寄贈していただきました。今回は図書に加えて学習教材も含まれています。一例をあげますと、「ことばカード」「micro:bit v2.2セット」「理科実験・観察器具使い方ガイド」「大科学実験 DVD-BOX」等々です。



### ■ 3月 小学部 学びの発表会

3月10日(金)、小学部で『学びの発表会(防災学習)』が行われました。

学年ごとにテーマを決め、調べて分かったことを、それぞれ模造紙やプレゼンテーションにまとめて一人一人発表しました。



### ■ 各学部の情報教育から感じること コンピュータリテラシー系統と指導計画!!

令和4年度の「小学部 情報教育 全体計画」にはコンピュータリテラシーの系統及び指導計画が定められ、先に紹介した「小学部学びの学習会」では「防災学習」については「ICT活用を手段」として、一年間の取り組みが発表されました。



宮城県立聴覚支援学校 情報教育部

(MIYAGI School for Deaf) + (J)

**MSDJ 通心** 2024.1.30

なんでも情報誌!

文責：大槻浩義

**2024 年 1 月**  
**能登半島地震で始まった令和 6 年**

令和 6 年 1 月 1 日、能登半島を襲った「能登半島地震」の緊急地震警報とニュースで一年が始まりました。

住宅の倒壊や海岸線の隆起、景勝地である見附島（軍艦島）の崩落を伝えるニュース映像に衝撃を受けました。数年前に能登半島を訪れ、漁村が点在する美しい海岸線を走りました。お世話になった海の家はどうだったのでしょうか。被災され亡くなられた方々には心からご冥福をお祈りいたします。



今年は暖冬と言われ雪の無い日が続いていましたが、1 月 24 日には寒波に見舞われ、夕方から激しく雪が舞いました。25 日は、朝から交通機関にも影響があり、一部 JR の遅れもありました。

通勤途中に、丸々と太った「ハクセキレイ」が、逃げもせず足元を横切っていました。

**1 月 全校 朝の集い (1/29)**  
**各種表彰・児生会テーマ発表****大谷選手からの奇贈グローブ披露**

今年度後期に行われたコンテスト、各種大会、検定試験等の表彰がありました。小学部から高等部まで、りっぱな賞状や盾、メダルを頂きました。

全国的なニュースでも話題になったアメリカンリーグの「大谷選手からの奇贈グローブ」の紹介がありました。本校にも右利き用が 2 つ、左利き用が 1 つ寄贈され、早速校長によるキャッチボールの「実演」を交えながらグローブの披露がありました。

いくつかのバリエーションのキャッチボールの最後には、キャッチャーを座らせてのピッチングがあり、鋭いストロークが決

まると会場からは響めきが起きました。キャッチャーの先生の捕球も、なかなか素晴らしいものでした。

休み時間にも自由に使えるとの事なので、たくさん使いましょう。

**ICT 支援員による研修会 (1/22・1/26)**  
**Google Classroom・forms**

令和 6 年度県の事業である「ICT 支援員配置事業」の一環で、ICT 機器及び Google Workspace の操作・活用研修が、1 月 22 日 (classroom)、1 月 29 日 (forms) の日程で行われました。

Google forms では、各種設定について詳しく説明がありました。特に、セキュリティーの上で大切な項目については、必要に応じて設定を「無効」とすることの重要性についての説明がありました。

研修会の資料は「共用：情報教育部」に掲載したのご活用ください。

**研修報告会 (1/29)**

校内行事の 1 つとして、研修報告会が行われました。

今年度は、「全国聾教育研究大会」と、「国立特別支援教育総合研究所」での研修の報告がありました。

全国聾教育研究会に出席・実践発表を行った伊藤先生からは「重複学級における手話と言葉の学習」についての実践発表を中心に報告がありました。生徒の特性に応じた工夫として、手作りのイラスト入りの教材をつくり、これによって、手話「バナナ」=指文字「バナナ」のように、平仮名の集まりは、もの名前!! ものは、手話で表現できるんだ!! との気づきをきっかけにして、どんどん手話を習得していった様子が紹介されました。

また研修報告では、奈良県立ろう学校の工夫をこらした校舎の様子も紹介されました。



国立特別支援教育総合研究所で「聴覚障害教育専修プログラム」を受講された安達先生からの報告の一部に、「ICT 活用と情報モラル」に関する「Chat GPT」の学習実践事例と、グループ研究についての紹介がありました。

ある小学生の読書感想文に ChatGPT が使われていたことに端を発し、教育現場での「生成 AI 自体を学ぶ」授業事例や、教員側としては、授業準備・授業改善のためのツールとしての活用についての説明がありました。生成 AI が近年出現し、法的な整備が整っていない現在では、特に学校現場においては「学習の視点」について問われていると思います。また同時に具体的な活用方法という課題もあげられていると思います。

グループ研究の成果として「言語発達段階早見表」と「言語指導内容表」の紹介がありました。この早見表の活用の視点としては、教員間の共通理解が図られるのではないかとのお話がありました。



お二方の先生、ありがとうございました。

(令和 6 年 1 月 29 日付けで、生成 AI の教育利用に係る手続きについて改訂があり、「授業等の教育活動における児童生徒の生成 AI 利用」が条件付きで可能となる)





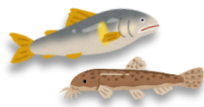
宮城県立聴覚支援学校 情報教育部  
(MIYAGI School for Deaf) + (J)**MSDJ 通心** 2024.2.27

なんでも情報誌!

文責：大槻浩義

**「やけど」する魚・・・のお話し!!**

「オイカワ」とは、細身の形をしたコイ科の淡水魚です。むかしむかし、手作りの釣り竿で、ミミズを餌にしてフナ釣りを楽しんでいると、近所の悪い兄さんが「オイカワ」を釣っては自慢していました。いかにも泳ぎが早そうで、とてもきれいな魚なのですが、警戒心が強く、フナやドジョウのようにはうまく釣れません。



そんなとき兄さんが釣ったバケツの中の憧れの「オイカワ」を眺めて、恐る恐る触っていると突然怒鳴られました。

さっきまであんなに元気だったのに急に弱ってしまいました。私たちにとって何のことはない体温でも、魚にとっては「火傷」をしてしまうほどの温度なのでしょう。



立春を迎え、本格的な春が待ち遠しいのですが、10数Cを超える寒暖の差が繰り返されると身体に堪えます。体調を崩してしまった人もいたのではないのでしょうか。十分に気を付けたいものです。

立春を迎え、本格的な春が待ち遠しいのですが、10数Cを超える寒暖の差が繰り返されると身体に堪えます。体調を崩してしまっただけではないのでしょうか。十分に気を付けたいものです。

**■ 小中学校かきぞめ展覧会**

冬休みの課題でもあった、毛筆・硬筆による「宮城県・仙台市小中学校書き初め展覧会」が青葉区のアエルでありました。

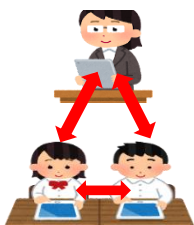


この展覧会は、宮城県において70年以上の歴史があるといわれています。

本校からも入選を果たした作品がありました。

**■ 3年生を送る会(高専部) (2/22)**

まもなく3月。卒業の季節がやってきました。高専部では、社会人として新しい世界への旅立ちを祝い、お別れ会が行われました。

**■ 共同編集 その1**

このMSDJ通心でも何度か取り上げましたが、「協働的学習」については、ロイノートツールとして実践できるのではないかと考えられますが、もう少し身近なツールとして、Google Workspaceの「Google スプレッドシート」の活用について紹介します。

教師が作成したシートを、教師と複数の生徒との間で共有しながら「共同編集」できる機能です。

基本的な取扱いを、ICT支援員の方に紹介していただきました。ぜひ参考にしてください。説明はiPad版です。

**■ Google スプレッドシート**

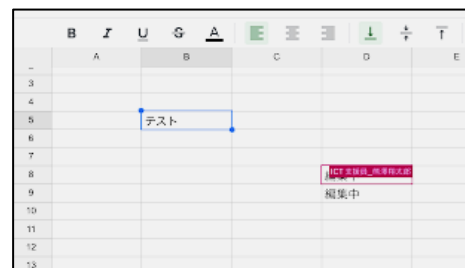
Excelと互換性があり、リアルタイム共同編集が可能な、Google スプレッドシートをご紹介します。

**【特徴】**

- 完全無料
- Excelとの互換性あり
- いつでもアクセスが可能
- 自動保存
- リアルタイム共同編集可能
- PC版はインストール不要無し
- QRコードの作成が簡単

**【共有方法】**

- ①共有したいスプレッドシートを開く
- ②右上の「…」をタップ
- ③「共有とエクスポート」をタップ
- ④「リンクをコピー」をタップ
- ⑤「リンクをクリップボードにコピーしました。」の表示
- ⑥共有したい相手にリンクを送信する
- ⑦上手く共有できていれば、共同作業中のセルが以下の画像のように表示されます。

**※注意**

送られたリンクからシートを開いても、編集権限がないと編集をすることができません。

編集権限は、シートの作成者の画面から右上の「…」→「共有とエクスポート」→「アクセス管理」から権限を与えることができます。

Wordに互換性のあるGoogleドキュメント、PowerPointに互換性のあるGoogleスライドでも、以上と同様の手順で共同作業を行うことができますので、ぜひ活用してみてください。

[ ICT支援員 ]

宮城県立聴覚支援学校 情報教育部  
(MIYAGI School for Deaf) + (J)**MSDJ 通心** 2024.3.22  
なんでも情報誌!

文責：大槻浩義

**“伝言ゲームは”****所詮ゲームに過ぎないのだろうか？**

つい30年ほど前、バブル全盛の時代であってもパソコンの記憶媒体（メディア）は1MBの3.5インチフロッピーディスクが主流でした。今ではその100万倍の1TB（テラバイト）がごく普通の家庭のPCでも使われています。文字情報だけで伝達する時代はとっくに過ぎ、動画での記録は当たり前で、あらゆるものの伝達が可能となったように思われます。



伝言ゲームとは、「グループ内で人から人へ言葉（メッセージ）を順に伝え、正確に伝わらない様を楽しむ遊び」（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）です。

「1クラス40人が1列に並んで、短い言葉で繋いだら、最後の人には、はたしてどこまで伝わるだろうか」と試したことがあります。結果は、伝達内容の精選と、取り組みへのモチベーションをいかに高く保つかによって違ってきました。「全校集会後、より解答に近いクラスから教室へ先に戻る」といったショットした遊び心などによって好結果を生みました。

3月6日に小学部では「学びの発表会」が行われ、令和3年度から「防災」をテーマとして3年目になりました。3・4年生による紙面発表の資料が廊下に貼り出されていましたが、「学校の中の防災設備」や「災害廃棄物について」では、各自がテーマを見つけて写真付きでわかりやすくまとめられていました。



ちょうど2年前にも、この「MSDJ 通心 (No.0)」の初号で紹介しましたが、当時の6年生が来年度は中学3年生になることを考えるととても歴史を感じ、今後も是非継続されることを願っています。

東日本大震災から13年が経過した今年は、震災を知らない子どもたちが本校でも半数以上となり、ますます学校の役割が重要視されることでしょう。

膨大な震災資料をIT機器のリプレースという厄介な運命に向き合いながら伝承することは本当に可能なのだろうか。であるならば「親から子へ」「子から孫へ」と、一世代間25年として40回の「伝言ゲーム」をもってすれば、こちらの方が「千年先の未来」まで確実に伝承できるような気がしてきました。

**■ 教育の情報化の実態等に関する調査****ひとり1台のタブレット端末配布1年目**

この時期になると、毎年「教育の情報化の実態等に関する調査」が実施されます。その中の「教員のICT活用指導力等の実態」に関する調査にご協力ありがとうございました。

結論から言いますと、昨年とほぼ同様な結果となったと考えられます。項目Aの「教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力」に関しては90%の先生方が「できる・だいたいできる」を示しています。一方、B項目の「授業にICTを活用して指導する能力」の、特に「協働してレポート・資料・作品などを制作・・・」の設問は、60%台とポイントが下がりました。しかし、あまり悲観的になる必要は無いと考えています。と言うのも、本校のような少人数の学習環境の中では設問のような学習形態は難しいと考えるからです。言うなれば、先生方にとっても経験値が低いからであると考えます。ただ、ICT機器が身近なものとなった現在では、教科を超えた横断的な学習・活動の場で活用しながら、経験値を高めていけば良いのではないかと考えています。

情報教育部の係としては、ひとり1台のタブレット端末配布によって、操作の問い合わせや、各教室で児童生徒がタブレットを活用しながら授業に取り組む姿が、明らかに増えたと感じています。来年度もその勢いで行きたいものです。

「指導力等の実態」の集計については、別紙でお知らせします。

**■ 全体研究会 各学部発表 3/8**

ICTを活用した授業について各学部から発表がありました。幼児が自分の思いを表出し、イメージを共有しながら気持ちが通じる喜び、伝え合う楽しさを知った。ICTを活用した授業改善への取り組み状況の自己評価によって、前述の“協働的な学習”方法を課題として捉えた・・・等々。

研究初年度ですので、今後の取り組みが楽しみです。

**■ 3月の校舎**

1年間 ご愛読ありがとうございました！！